

# イラン、トルコの 農業および牧草遺伝資源寸描

農林省草地試験場 川 端 習太郎

## Ⅱ. イラン、テヘラン近郊とイラン南部



(Ⅱ-1) テヘラン近郊での綿羊放牧風景 イランの綿羊には土着のものも含め、いくつかの品種があるが、これはシャル・ガズヴィンという品種である。



(Ⅱ-4) ベルセポリス イラン南部シラズの北方約57kmにある古代ペルシャ帝国の栄華の跡である。敷地内には乾燥地の植物がみられる。この付近にはザルガン農業試験場があり、アルファルファの採種やかんがい栽培試験が行なわれている。



(Ⅱ-2) 森林草地研究所に属するホマンド草地研究センターにおける牧草育種圃場 イランにおける牧草の育種は、同センターにおいてはじまったばかりであり、Agropyron 属、Bromus 属など乾燥に強い草種を対象に耐旱性について選抜が行なわれている。



(Ⅱ-5) イラン南西部クーゼスタン州ハフタッペにあるイラン、米国、日本3国合併で設立されたイラン法人農業開発会社 (IACI) におけるアルファルファ栽培 この会社では、アルファルファのほか、砂糖キビ、砂糖大根、マイロなどの栽培、綿羊、肉牛の肥育を行なっている。アルファルファはベレットに加工されるがその収益性は高い。この写真にみえるアルファルファの品種は米国のメサシルサである。



(Ⅱ-3) テヘラン近郊の村落 川や泉のある場所を中心に村落がみられる。年間雨量 200 mm程度のこの地域の山には木はみられない。



(Ⅱ-6) IACIにおける綿羊飼育 イランでは綿羊肉が不足気味で増産計画をたてている。ここで飼育されている主な綿羊の品種は、バルチ、サンジャビ、メハラバン、ローリーなどである。オーストラリアなどで改良された品種に比べて、おとなしく飼育し易いとのことである。